

# アスファルトの硫化水素測定

前田道路小山支店様のご協力により、アスファルトからの硫化水素H<sub>2</sub>S揮発量測定検査をしました。



1.通常のアスファルト

2.アスファルト+抗酸化溶液（10%）

を同条件で作製し、硫化水素濃度を検知管にて測定



検査条件

骨材加熱後アスファルトと同時に上記水溶液を混入 180℃まで温度を上げ  
検査開始

開始時温度 180℃

終了時温度 130℃

検査時間 5分

検知管 H<sub>2</sub>S用特注検知管



# アスファルトの硫化水素測定



## 結果

1. 0.07ppm  
(普通のアスファルト)
2. 0.04ppm  
(アスファルト+抗酸化溶液)

- ・ 今回の試験では施工直後 150°C前後を想定して行いました。
- ・ 通常のアスファルトに対して42.8%低下しました。
- ・ 実際に感じる臭いも、アスファルト+抗酸化溶液の方はほとんど無かった。

2007.12.10

生活環境設計 (株) 大嶋 宣通